

第3節 福祉機関と職リハ機関との連携モデルと課題

1. 精神障害者福祉施設における試行を踏まえた連携モデルとその課題

(1) 目的

「職場適応促進のためのトータルパッケージ（以下「トータルパッケージ」という。）」は、従来から精神障害者も対象としており、作業遂行力の向上やストレスや疲労の捉え方や対処行動の確立のための支援方法として利用されている。

今回の精神障害者を対象とする福祉施設での試行においては、トータルパッケージを集中的に実施するだけでなく、就労支援プログラムの一つである職業ガイダンスを併せて実施した。その試行結果を取りまとめ、福祉施設における就労支援及び就労支援機関との連携においてトータルパッケージの果たす役割と可能性について検討する。

(2) 方法

(ア) 対象施設

同一法人において、精神障害者のための生活支援センター（3 所）、小規模作業所（5 所）授産施設（小規模含む 2 所）福祉工場等を運営しており、利用（登録）者数は 200 名程度となっている。

(イ) 対象者及びその属性

同法人の利用者 10 名。性別は男性が 7 名、女性が 3 名。年齢層は 20 代が 2 名、30 代が 7 名、40 代が 1 名。9 名が同法人の通所施設を利用しており、1 名は生活支援センターを相談のために利用している。利用期間は 1 年程度から 10 年以上。障害種別としては、統合失調症が 7 名、社会不安が 1 名、うつが 1 名、てんかんが 1 名となっている。

(ウ) 方法

今回の試行においては、前期として情報の提供を中心にした職業ガイダンスを、後期としてトータルパッケージの集中実施を位置づけ、前期と後期の間に約 2 ヶ月の間隔をおき、それぞれ 6 日間ずつ実施した。また、対象者の体調や疲労を考慮に入れ、日程は 2 日間ずつ連続で行い、2 日目と 3 日目、4 日目と 5 日目の間に 1 ～ 2 日間の休日を設定した。

なお、実施に当たっては、前期・後期両方の受講を原則とした。

(3) 試行状況

(ア) 職業ガイダンス

① 目的

(a) 障害の受容と職業意識の醸成に向けた知識・情報の提供

対象者が一般就労について考えたり、施設スタッフと相談する際に共有できる情報をコンパクトに提

供することとした。具体的には、障害の受容やバランスの取れた職業意識の醸成、就労及び就職活動において必要な知識の提供を目指した。

(b) 自己理解の促進

M-ストレス・疲労アセスメントシート（以下「MSFAS」という。）の記入とともに、ワークサンプル幕張版（以下「MWS」という。）簡易版の体験を実施し、障害や作業能力についての自己理解の促進を図った。

(c) 共有化

職業ガイダンスにおける個人の体験や考えの共有を目的としたグループワークを期間中に適宜行い、メンバー間の親和性の構築や知識の定着、自己理解の深化を図った。

②実施内容

(a) 講義・演習

障害の受容やバランスの取れた職業意識の醸成に必要だと考えられる疾病の生活障害としての捉え方や障害の表れ方としてのストレス・疲労について、精神障害者の就労支援施策や障害を踏まえた職業能力の捉え方や働き方についての講義とともに、就職活動において必要となる具体的な知識として就労支援機関の利用方法、求人票の見方についての講義を行った。また履歴書の書き方、面接の受け方においては、目的に応じたワークシートを用いるとともに、面接の受け方においては、ロールプレイでの模擬面接を行った。

(b) 見学

精神障害者社会適応訓練事業を実施し、電子部品組立を行っている事業所を見学し、事業主から障害を開示しての受け入れ状況についての話を伺った。

(c) MSFAS

自らの疲労やストレスについての認識や対処行動の状況を意識付けするための MSFAS の記入を前半に位置づけた。

(d) MWS 簡易版

MWS 簡易版 13 課題の中から各対象者 7 ～ 13 課題を行った。対象者へのストレスの軽減のため、希望に応じた課題選択を行った。後期には MWS 訓練版の集中的な実施を計画していたため、MWS 訓練版への導入として位置づけた。

③実施体制

講義、演習、グループワークについては、障害者職業総合センター（以下「当センター」という）スタッフ 1 ～ 2 名、MWS 簡易版については当センタースタッフ 3 名と施設スタッフ 3 名が携わった。また、講義の一部を地域障害者職業センターの障害者職業カウンセラーが担当した。

④日程

職業ガイダンスの日程は図3-6のとおり。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	
9:30					見学		9:30
10:00	オリエンテーション	講義	演習	講義	事業所見学	演習	10:00
	自己紹介、日程説明、同意書説明	就労支援Ⅲ ①MSFAS(シートF)の記入 ②生活障害として捉える	履歴書の書き方Ⅱ 履歴書を書いての質問	就職活動の進め方Ⅲ ハローワークの使い方		面接の受け方Ⅱ 模擬面接	
10:50	休憩					休憩	10:50
11:00	講義	講義	体験	講義		GW	11:00
	就労支援Ⅰ	就職活動の進め方Ⅰ	作業体験Ⅰ	就職活動の進め方Ⅳ		ガイダンスを受けて 自分らしい働き方について	
	精神障害者の就労支援制度	①MSFAS(シートD)の記入 ②働き方について考える	MWS(簡易版)の体験	求人情報の見方			
11:50	休憩(昼食)					休憩(昼食)	11:50
13:00	講義	講義	体験	体験		演習・相談	13:00
	就労支援Ⅱ	就職活動の進め方Ⅱ	作業体験Ⅱ	作業体験Ⅲ		自分を知るⅡ	
	ストレス・疲労への対処とMSFAS	自分に合った働き方を考える	MWS(簡易版)の体験				
13:50	休憩						13:50
14:00	演習	演習	演習	MWS(簡易版)の体験	GW	MSFASの再記入と個別相談	14:00
	自分を知るⅠ	履歴書の書き方Ⅰ	面接の受け方Ⅰ		事業所を見学して		
	MSFAS(シートABC)の記入	①履歴書の種類と書き方 ②履歴書用ワークシートの記入	面接用ワークシートの記入				
14:50	GW						14:50
15:05							15:05

GW：グループワーク

図3-6 職業ガイダンス 日程表

⑤実施状況

(a) 障害の受容及び職業意識の醸成に向けて

【講義・演習】 就労支援とその支援機関、障害に関連する基礎的な知識について講義を受け、「自分の働き方」や「障害の捉え方」についてグループワークでの意見交換をすることで、新たな働き方や捉え方についての理解が進んだと判断された。また、就職活動に必要な実用的な知識については、ワークシートの記入を行うことで、自分のこととして具体的に検討することができた。

【見学】 前述した講義・演習の後、精神障害者の就労に理解と経験のある事業所を見学し、実際の事業所で展開されている柔軟な就業時間や上司・同僚からの配慮ある環境での働きやすさを感じ取ることができた。

(b) 自己理解の促進

【MSFAS】 所定の用紙に、自らの生活状況や疾病について記入することで、自らの感じ方や生活について考える機会になったと考えられる。

【MWS 簡易版】 対象者の希望による課題選択に即して実施したが、実施前の作業遂行に係る思惑と

実施状況が一致せず、自らの作業能力について「思ったよりできなかった」と感じる者や、反対に「意外にできた」と感じた者がいた。また、対象者自身の評価とスタッフ側の評価に乖離が生じる対象者もいた。いずれの場合にあっても、試行後半のトータルパッケージの集中実施に向けた布石として機能したと考えられる。

(c) 出席状況

出席状況は、6 日間で 8 名、5 日間、4 日間で各 1 名であった。

(イ) トータルパッケージ

①目的と内容

トータルパッケージを集中的に実施し、作業遂行力の向上とセルフマネージメントスキルの習得を図る。具体的には次のとおり。

(a) ウィスコンシン・カード・ソーティングテスト

認知上の特徴を把握するとともに補完手段の重要性についての気づきを促すためのウィスコンシン・カード・ソーティングテスト（以下「WCST」という。）を実施。

(b) M-メモリーノート

セルフマネージメントスキルの習得の際に用いる M-メモリーノートの集中訓練を実施するとともに、この期間中の積極的な使用を図る。

(c) MWS 訓練版

自らの作業遂行上の特徴と補完方法の必要性、疲労の作業遂行への影響等についての理解を深めるとともに対処行動について習得を図るため MWS 訓練版を行う。

②日程

初日及び 2 日目に WCST 及び M-メモリーノートの集中訓練を個別に実施し、それ以外の時間については、MWS 訓練版を実施した。職業ガイダンスにおいて、MWS 簡易版を実施していなかった 1 名のみ MWS を簡易版から開始した。（図 3－7 参照）

③実施体制

WCST については対象者 3 名に当センタースタッフが 1 名、M-メモリーノートの集中訓練については、1 対 1 で実施し、指導は施設スタッフ 2 名が行った。MWS 訓練版については、当センタースタッフ 2 ～ 3 名で実施した。

	1 日目			2 日目		3 日目	4 日目	5 日目	6 日目
10:00	オリエンテーション			WCST	M・メモリーノート	MWS	MWS (個別に実施、休憩は随時)		個別面接（順次） (面接の時間以外は MWS を個別に実施) (面接終了後に M・メモリーノートに感想を記入)
10:50	休 憩								
11:05									
12:00	WCST	M・メモリーノート	MWS	WCST、M・メモリーノートは入れ替わりで順番に実施、それ以外の人は MWS を実施					
昼 休 み									
13:00	WCST	M・メモリーノート	MWS	MWS (個別に実施、休憩は随時)					同 上
14:40	WCST、M・メモリーノートは入れ替わりで順番に実施								
15:00	帰りの会（随時実施）					グループワーク トータルパッケージを受けて			

図 3-7 トータルパッケージ実施日程表

④実施状況

(a) WCST

初日、2 日目に個別に実施。各対象者の作業遂行上の特徴としてのワーキングメモリーの活用状況や補完手段の取り入れ方について把握することができ、その後の MWS 訓練版における作業遂行状況や課題選択に向けた手掛かりを得ることができた。

(b) M-メモリーノート集中訓練

M-メモリーノートをセルフマネジメントスキルの習得のためのツールとして使用するため、WCST と同様に初日、2 日目に個別に実施。新規学習の場面として捉え、理解・判断力の状況、ワーキングメモリーの状況などを推測することができた。

(c) MWS 訓練版

対象者の属性、出席状況、MWS の実施状況は表 3-5 に示したとおり。

以下に、MWS 訓練版の基本的な進め方を示す。

職業ガイダンスにおける MWS 簡易版の実施状況、WCST 及び M-メモリーノート集中訓練の状況から作業遂行上の特徴をアセスメントし、一人ひとりの作業遂行上の課題と必要であって習得可能なセルフマネジメントスキルを検討の上、MWS 訓練版の本格的な実施に移行した。実施課題の選択にあたっては、基本的には各対象者の希望に沿って行ったが、個別アセスメントの状況を踏まえて当センタースタッフから課題の提案を行うこともあった。

セルフマネジメントスキルについては、M-メモリーノートを用いた行動の振り返りを基本に MWS 訓練版における適切な課題選択、重要メモの利用や見直しのなど補完方法の導入による作業遂行の安定化を踏まえ、「休憩シート」を用いての疲労のモニタリング及び作業実施の計画化を図った。

表 3－5 MWS 訓練版実施状況

対象者	A	B	C	D	E	F	G	H	I
性別/年齢	女/30代	女/30代	女/30代	男/30代	男/30代	男/40代	男/30代	男/20代	男/20代
出席日数	6日間	4日間	3日間	6日間	6日間	6日間	6日間	5日間	6日間
障害名	統合失調症	統合失調症	統合失調症	統合失調症	統合失調症	統合失調症	統合失調症	社会不安	うつ
MWS	訓練版 数値チェック 物品請求書 ピッキング ナプキン折り HW版 家計簿作成	簡易版 ラベル作成 数値チェック 物品請求書 作業日報 ピッキング 数値入力 文書入力 コピー&ペースト ファイル整理 検索修正 訓練版 検索修正	訓練版 数値チェック ピッキング 物品請求書	訓練版 数値チェック 物品請求書 プラグタップ組立 数値入力 ラベル作成	訓練版 数値チェック 数値入力 文書入力 検索修正	訓練版 数値チェック 文書入力 物品請求書	訓練版 数値チェック 重さ計測 物品請求書 HW版 宛名書き	訓練版 数値チェック ラベル作成 文書入力 数値入力 検索修正	訓練版 数値チェック 物品請求書 プラグタップ組立 作業日報 数値入力 ファイル整理 検索修正

(4) 事例

(ア) 事例 a

①事例の概要

33歳の女性で、統合失調症と診断を受けている。病状は安定しているが、不安や落ち着きがなくなるといった症状とともに体力の低下についての自覚がある。作業所に週 2 日通所しており、それ以外は家事を任されている。

②職業ガイダンス受講状況

職業ガイダンス最終日の個別面接において、障害については、「病名」ではなく「症状」を重視し、周囲から理解を得ることの重要性や就職に当たって障害を開示することのメリットについて印象深く受け止めていた。

③トータルパッケージ実施結果

(a) WCST

エラーの減少は認められるもののルール of the 推測については、カテゴリーの順番・回数ともに十分に把握できておらず、補完手段を十分に使いこなせていない状況が見られた。作業遂行においては、作業開始時点での指示理解の確認と状況に応じた再指示の必要性、作業への慣れの遅さが推測された(表 3－6)。

表 3－6 aさんの WCST の結果

セッション数	カテゴリー達成数	非保続性エラー	保続性エラー
1	4	13	6
2	6	8	0
3 ※	6	6	1

(備考) * 補完手段としてカテゴリー名カード、ポインティングデバイスを使用

(b) MWS 簡易版

検索修正など操作手順や課題内容において新たな学習を求められる作業において、エラーが発生する傾向が認められた（表 3－7・表 3－8 参照）。

表 3－7 aさんの事務作業における平均正答率とエラー内容

課題名	数値チェック	物品請求書作成	作業日報集計	ラベル作成
実施の有無	○	○	△※	×
平均正答率(%)	100%	100%	96.9%	
エラー内容			集計ミス	

備考) ※時間の都合によりレベル 1・2のみを実施

表 3－8 aさんのOA作業における平均正答率とエラー内容

課題名	数値入力	文書入力	コピー＆ペースト	ファイル整理	検索修正
実施の有無	○	○	○	○	○
平均正答率(%)	100%	100%	75.0%	79.2%	0%
エラー内容			貼り付けミス	分類ミス	操作ミス

(c) MWS 訓練版・ホームワーク版

課題の難易度にひきずられることなく高い正答率を保っており、簡易事務作業及びピッキング作業での確実な作業遂行状況が認められた。また、作業 3 日目からは、作業実施中の自らの疲労状況を踏まえ、自発的に定期的な休憩（1 時間に 1 回 15 分程度）を取り、安定した作業の遂行を維持することができた（表 3－9・表 3－10・表 3－11 参照）。

表 3－9 aさんの事務作業における平均正答率とエラー内容

課題名	数値チェック	物品請求書作成	作業日報集計	ラベル作成
実施の有無	○	○	×	×
平均正答率(%)	100%	100%		
エラー内容				

表 3－10 aさんの実務作業における平均正答率とエラー内容

課題名	ピッキング	重さ計測	プラグタップ	ナプキン折り
実施の有無	○	×	×	○
平均正答率(%)	100%			92.9%
エラー内容				折りのズレ、手順誤り

表 3－11 aさんのホームワーク版事務作業における平均正答率とエラー内容

課題名	宛名書き	健康管理グラフ作成	家計簿作成
実施の有無	×	×	○
平均正答率(%)			98.4%
エラー内容			書き忘れ、転記ミス